

高倉通信

〒036-0221
平川市中佐渡南田1-1
高倉新聞販売店
電話 0172-57-3030
第80号

東奥日報
朝日 毎日 経済
読売 日本 新聞
スポー ツ 各種

「わが家のつけもの自慢グランプリ」

第1回優勝者は

工藤とみ子さん

2月21日、平川市役所尾上庁舎内ホールで行われた、「わが家のつけもの自慢グランプリ」(高倉新聞店主催)。この日は、農産加工グループふるさとの味フェアも開催され、多くのお客様が訪れましたが、15種類のつけものがエントリーされ



賞品を受けとる工藤さん

る中、グランプリに輝いたのは南田中の工藤とみ子さんです。



ほとんど全種類を食べ比べました

工藤さんは、大根の7色漬けなど4種類を出品。なかでも一番人気を集めたヤーコン漬けは、軽快な歯ごたえと、ヤーコン本来の自然な甘みを活かした上品な味付けで、食べ比べをしたみなさんが、試食後にフェアで購入を求める場面も多くありました。

「ひらかわ 推奨品」

アップルケーキ 古川菓子舗

平川市自慢の加工品を、大いにアピールしようと創設された「ひらかわ推奨品」には、りんごやそばもやしなど7品目が認定されました。

そのうち、古川菓子舗の「アップルケーキ」は、全国菓子大博覧会の会長



アップルケーキとハチミツカステラ

賞を受賞したお菓子で、県産のりんごを丸ごと1個スポンジの中に閉じ込めました。

また新作として、津軽産のりんごの花のハチミツを生地にたっぷりしみこませた、ハチミツの芳醇な味と香りが広がる「林檎の花のハチミツカステラ」も売出し中です。古川さんは「地元にこだわり、今後もアピールしていきたい。ご家庭用やおみやげ品として是非ご賞味下さい」との事でした。

まち歩き

弥生時代in尾上

稲作が始まった弥生時代。隣の田舎館村垂柳遺跡で弥生中期の水田跡が発見され、田舎館式土器は、五輪野遺跡(猿賀明堂丑盛・通称熊野堂崎)からも多く出土しています。現在(はりんご畑)となっている熊野堂崎は、出土品から、縄文晩期から生活が営まれ、弥生時代に



垂柳遺跡から (遊稲の館展示)

は墓地として、奈良・平安時代は集落が形成されていたようです。

県内の弥生時代の生活は、縄文時代ほど明らかになっていません。ちなみに卑弥呼は弥生時代後期における邪馬台国の女王。米は現在のような炊き方ではなく蒸して食べられていた説があり、その米を保管する高床式倉庫にはネズミの侵入を防ぐネズミ返しや雨水の浸入を防いだり風通しを良くする工夫がされています。

新聞配達募集